

# 第66回全国公立学校教頭会研究大会 第42回四国地区小中学校教頭会研究大会 第50回高知県小中学校教頭会研究大会

## 高知大会のご案内



### ■ 研究主題 (全国統一研究主題 第13期1年次)

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

### ■ サブテーマ

「夢と志をもち、協働して未来を創る子どもを育成するチーム学校づくりの推進」

### ■ サブテーマの設定理由

私たちが生きているこの社会は、これまで以上にグローバル化やデジタルトランスフォーメーション（ITがもたらす変革）が進んでいる。一方で、少子高齢化や地球環境問題などの多様な課題が進行していく可能性があり、先行きが不透明で予測困難な時代である。そのような高度化・複雑化する諸課題への対応をしながら、私たちが望む未来を私たち自身が示し、創り上げていくことが求められるようになってくる。

これからは、一人一人が中心となる超スマート社会（Society 5.0）を目指して、子どもが自ら考え、主体的かつ責任をもって社会変革を実現していきながら、新たな価値を創造し行動することができる力を身に付けることが大切である。また、学びの支えとなるデジタル機器を用いたオンライン教育やAIなどを活用した学習は、空間を超えて世界のどこでもつながることができる学びの可能性を広げるため、様々なニーズの子どもに対応することができる。一方、学校

で教師と学習者、学習者同士が共に関わり合いながら成長することの価値や学校内外で様々な人と直接関わる社会体験や自然体験活動、スポーツ、文化芸術活動、異文化交流、地域社会への参画など、オンラインでは経験し得ないリアルな学びの価値を再認識することも必要となる。さらに、身に付けるべき資質・能力の育成は、幼児教育から大学院まで連続性・一貫性をもちながら社会のニーズに応えるものとなるように、「デジタル」と「リアル」の最適な組合せが必要となってくるであろう。

また、何よりも学習者視点に立ち、誰もが、いつでもどこでも、誰とでも、自分らしく学ぶことができ、誰一人取り残されず、一人一人の可能性が最大限に引き出されなければならない。

この一人一人の多様な幸せが社会全体の幸せでもあるというウェルビーイングが実現される社会をつくっていく必要がある。



こうした状況を踏まえ、学校は基礎的な知識・技能の習得に加え、これらを活用して課題解決をするために必要な思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を構築していく力を育成しなければならない。これらは獲得した資質・能力を使った言語活動や協働的な学習活動を通して、効果的に育成する必要がある。さらに、地域社会の様々な機関等と連携することで多面的に育成することが望まれる。学校内外において、生涯を通じて学び成長し、主体的に社会の形成に参画していく中で、様々な立場の人々との共生社会を実現できる子どもを育てていきたい。そのためにも我々副校長・教頭は、チーム学校の柱として現状を適切に分析して課題解決の方向性を見極め、他の教職員や地域とのコミュニケーションを基に目指すビジョンを共有しなければならぬ。そして、現状に満足しないで志をもってさらに高め合うことができる環境を創り出し、共に学び続けることで、成長できた喜びを実感できる教職員集団を育てていきたい。そうすることで、社会に出て自立して生き抜いていくために必要な資質・能力である「未来を切り拓く力」を育み、子どもと共に歩む教職員集団として「魅力ある学校」を創り上げることができると考えたためサブテーマに設定した。

◇開催期日 令和6年7月31日(水)・8月1日(木)

◇開催地 高知県高知市

◇開催方法 参集型・オンライン型を併用したハイブリット大会

◇一日目 7月31日(水)

### ①開会行事

### ②シンポジウム

「夢と志をもち、協働して未来を創る子どもを育成するチーム学校づくりの推進」

## 【コーディネーター】

露口 健司 氏（愛媛大学大学院 教育学研究科 教授）  
育実践高度化専攻 教授）

## 【シンポジスト】

藤原 文雄 氏（国立教育政策研究所初等中等教育

研究部長 教育政策・評価研究部長）

田村 千賀 氏（千クリエティブカンパニー代表

取締役）

谷 智子 氏（高知市教育委員会 教育委員）

## ③記念講演

【演 題】 「想像と創造」～地球の子供ビジ

ョン～

【講 師】 安藤 桃子 氏

【講師の紹介】 ロンドン大学芸術学部を卒業後、ニューヨークで映画作りを学び、2010年「カケラ」で監督・脚本デビュー。14年に、自ら書き下ろした長編小説「0.5ミリ」を映画化し、数々の賞を受賞。

その後、高知県に移住し、子ども達との映画作りやアートなど、食育、自然、農業を通じ、優しい地域の地場づくりを行う。23年11月、映画を通じて心と文化を



伝える「キネマミュージカル」がオープンするなど、多岐にわたり活動中。父は俳優で映画監督の奥田瑛二さん、母親はエッセイスト、コメンテーターの安藤和津さん、妹は俳優の安藤サクラさん。

◇二日目 8月1日（木） 分科会

○第一分科会 A・B 『教育課程に関する課題』

○第二分科会 『子供の発達に関する課題』

○第三分科会 『教育環境整備に関する課題』

○第四分科会 『組織・運営に関する課題』

○第五分科会 A・B 『教職員の専門性に関する課題』

○第六分科会 『副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題』

○特別分科会① 『時宜に応じた課題』

「誰一人取り残さず、個々の可能性を最大限に引き出す教育の推進に向けた教頭の役割―個別最適な学びと協働的な学びの日常化を図るための教育DXに向けて―」

講師 東京学芸大学 教育学部 教授 高橋 純 氏

○特別分科会② 『開催地の創意を生かした課題』

「少子高齢化の地域におけるチーム学校づくり―中山地域における地域とともに取り組む学校づくり―」

講師 高知県の町立川内小学校 校長 川上 確也 氏  
講師 山口県周南公立大学 教授 清原 泰治 氏

## ■「新しい時代のハイブリット型研修」

高知大会は、より多くの会員の皆様に参加できるように、昨年度の石川大会に引き続き、参集とオンラインを組み合わせたハイブリット型の研究大会となります。特に2日目の分科会では、それぞれの課題に沿って、参集された皆様と話題を共有し、あたたかみ会場にいるような時間となるように、グループでの協議や全体発表等もできるように、東京と高知の2つのオンラ

イン業者の方が共同でサポートしてください。石川大会の成果をさらに発展させ、よりスムーズな場を提供できると思います。これにより参集約1200名、オンライン約2000人となり、全体で3000人を超える皆様と共に学び合うことができることとなります。

## ■「開催方法の概要」

◇1日目：開会行事、記念講演、シンポジウム

高知県立県民文化ホールの大ホールで開催します。記念講演は、高知を拠点に様々な分野でご活躍されている映画監督の安藤桃子氏をお招きします。シンポジウムは、本大会のサブテーマについて、教職員の働きがいや地域を巻き込んだウエルビーイング等について、様々な立場の方のお考えから教育現場での副校長・教頭の役割について学んでいきます。

◇2日目：分科会、閉会行事

参集型・オンライン型でグループ編成し、ZOOMのブレイクアウトルームを利用します。全国の提言者の方から貴重なご実践を提言していただき、協議の柱に沿って活発な協議が展開されると思います。

## 「大会開催にあたって」

様々な課題が山積している学校現場において、副校長・教頭がこれからの時代にどのように対応していかなければならないのかを、本大会を通して具体的に学び、明日の実践に生かすことができるよう、高知大会実行委員会は全力で大会に取り組んでまいります。高知に来てよかった、高知大会に参加してよかったと思ってくださいるようにおもてなしの心をもって、皆様をお待ち申し上げております。